

小柴昌俊名誉教授のスウェーデンでの 受賞式以降の記念行事の数々

理学系研究科物理学専攻・素粒子物理研究センター 駒宮幸男

昨年12月10日のスウェーデンでのノーベル物理学賞受賞式以降の記念式典の内、本学に深く関係するものを取り上げて御報告いたします。

東京大学は暮れも押し迫った12月26日、東京大学主催の、小柴名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念祝賀会をパレスホテルのローズルームにて盛大に催した。広渡副学長の司会のもと、佐々木毅総長の歯切れの

よい演説で会は始まった。スウェーデンでのノーベル賞授賞式の様子が大きくスクリーンに映し出される演出もあった。小柴先生のシカゴ時代からの友人である長倉三朗日本学士院長は「ノーベル賞がわかる前に小柴先生を学士院会員にすることを決めていた」ことを強調された。遠山敦子文部科学大臣が公務で遅れたため、一挙に有馬朗人元総長の乾杯となった。俳句を一句で乾杯かと思ひ

きや、参議院の答弁で培った弁舌がさわやかすぎて15分話されビールが温まった。遠山大臣は対照的に短い祝辞を述べられた。歓談と豪華なビュッフェの途中に、高エネルギー加速器研究機構の菅原寛孝機構長が職業柄、「小柴先生は加速器を用いた素粒子実験も牽引されていた」ことを強調された。菅原寛孝機構長は小柴先生に陽子崩壊の重要性を託宣されたと聞く。小柴先生の旧制

記念祝賀会にて挨拶する佐々木総長 ▼



東京大学 小柴昌俊名誉教授ノーベル物理学賞受賞記念祝賀会



▲ 小柴名誉教授のシカゴ時代からの友人である
長倉三朗日本学士院長

▶「黄門様」姿の小柴名誉教授と由美かおるさん

東京大学 授ノーベル物理学賞受賞記念祝賀会



第一高等学校時代の友人の一人である元日本銀行総裁の松下康雄氏の祝辞のあと、Kamiokande 実験のために20インチの光電子増倍管を開発した浜松ホトニクス社の画間輝男社長は、小柴先生に光電子増倍管の値段を値切られた過程を述べられ、応用などでなく基礎科学こそやるべきだと豪快に話された。何と言ってもハイライトは、小柴先生がファンであると公言する由美かおるさんが花束を持って現れたことである。小柴先生は水戸黄門のコスチュームで迎え打った。この辺りの演出は、東京大学の広報が如何にイマジネーションがあるかを見せつけるものであった。硬軟相まった素晴らしい祝賀会であった。

この前の週には、宇宙線研究所と素粒子物理国際センターが主催した祝賀会があった。不遜にも東京大学の祝賀会の前に催したが、大意はなく、日にちがなかっただけである。

明けて2003年1月16日、理学部一号館正面玄関前に新たに整備された「小柴広場」で、東京大学の幹部一同と小柴令夫人御列席のもと小柴先生が研究成果のパネルの序幕と「学問の木」楮の木の植樹をされた。この楮の木は孔子廟に高弟が植えたものの種子からバイオテクノロジーによって育成したものである(詳しくは学内広報2月3日を参照)。小柴先生の不幸の弟子としては、これを枯らさないようにしていきたい

▶1月16日の植樹祭にて
(右から 佐藤研究科長、小柴名誉教授、小柴名誉教授夫人、佐々木総長)



い。植樹のあと、安田講堂において、小柴昌俊東京大学名誉教授ノーベル賞受賞記念学術講演会が催された。大学も講義を休講にして、多くの学生が参加出来るように配慮した。小間副学長の司会で始まり、佐々木総長は「総長在任中3回神岡を訪れ現場で、基礎研究の重要性を感じた。チャレンジングな研究ができる環境を作りたい。自分の総長任期中にこのような忘れ難い思いをあと何回かしたい」と仰った。次いで小柴先生のストーカーであると自認される蓮實重彦前総長は、「在任中に学生たちに何年か後にノーベル賞がくると言ってきたが、小柴先生は私がでたらめを言う総長でなかったことを証明して下さり感謝している。今回の賞は小柴先生が60歳のときの業績であり、年をとった者が何の理由で大学に残っているのかという疑問を払拭するものであり、嬉しい。」と述べられた。次いで小柴先生がスウェーデンでのノーベル賞講演を日本語でゆっくりと平易に話された。講演のあとで質疑応答の時間が設けられ、学生から科学者の生き方などの鋭い質問がでて、丁寧に答えられていた。「小柴スクール」の番頭である戸塚洋二高エネルギー加速器機構次期長は、ニュートリノ物理の将来を語った。学術講演会には多くの学生や教官が参加し盛況であった。

この他にも東京大学と朝日新聞が主催する、小柴昌俊講演会が2月2



◀ 記念学術講演会の様子

日有楽町朝日ホールで開かれた。パネルディスカッションでは、「アインシュタインの一般相対論は彼でなくともつくり出せたが、モーツアルトの音楽は彼固有のものであり、モーツアルトがアインシュタインよりも優れている」という小柴理論に対して、ピアニストの遠山慶子氏と

物理学者の武田暁氏が攻めあったのが興味深かった。

今後も小柴先生は多忙な予定をこなしておいでになる。益々お元気で、わが国の基礎科学のため、性格まで丸くなることなく、仰りたい事をどんどん仰って頂きたいと考えます。

スタイル・内容が変わりました

大学院生によるインタビュー記事、「研究室探訪」はいかがでしたか？
シリーズとして続けていく予定です。

皆様の研究室にもインタビュアーが何うかも知れません。
外部の方、OBの方に、異なる視点で書いていただく記事も、
引き続いて載せていきたいと思ひます。